

# 折立五丁目地区の

## 宅地復旧工事が完了

東日本大震災で大規模な地滑り被害を受けた青葉区折立五丁目地区の宅地復旧工事が完了し、3月22日、宅地の保有者への完了報告会が行われました。

震災では、山の斜面などに土を盛って造成した部分が地滑りを起こし、58世帯が暮らす2・5ヘクタールという広い範囲で住宅が全壊するなどの被害を受けました。平成25年5月から復旧工事が本格的に始まり、地盤の強化や擁壁の再構築などが行われてきました。復旧工事を行った区域では、既



奥山市長から宅地保有者の代表へ、引き渡し書が手渡されました



復旧前(上)と復旧後

市政トピックス

### 東部地域の防災集団移転先の宅地造成工事が完了

に数件の住宅建築工事も始まっており、報告会に出席した奥山市長は「4年という長い期間お待たせしました。今後はコミュニティづくりをもう一度、一緒に進めてまいりましょう」とあいさつしました。



宅地の造成工事が完了した南福室地区

震災に伴う防災集団移転促進事業として実施してきた東部地域の移転先7地区の宅地造成工事が完了し、3月26日、市役所で工事成報告および宅地引き渡し式が行われました。

### 復興へ駆ける

#### 世界をリードする防災環境都市へ

仙台市長 奥山恵美子



去る3月に開催された国連防災世界会議において、今後15年間の世界の防災戦略を示す「仙台防災枠組」が採択されました。この枠組の特徴は、被災者数や経済的損失など七つの目標を明示し、災害による損失やリスクの削減を呼び掛けたことです。

また、「女性と若者のリーダーシップの促進」や「事前の防災投資は災害後の対応・復旧より費用対効果が高い」、「よりよい復興」を指して災害後の復旧・復興が行われるべき」といった項目が指導原則として盛り込まれました。大震災後の復旧・復興の中で、私たちがまさに肌身で感じてきた事柄が世界の指針に位置付けられたことは、大変意義深いことであると感じています。

ワルストロム国連事務総長特別代表(防災担当)は、「大震災の惨禍から力強く立ち上がった被災地への敬意も込め新たな枠組に仙台の名を冠した」と話しておいででした。107万市民の皆さんが復旧・復興に多大

なお力を注いできたことが、こうした形で評価されたことを誇りに思いながら、なお一層、世界の防災文化の向上に力を奮っていかなくてはならないと、改めてその責務を痛感しています。新年度は、そうしたことから本市の方向性を牽引する部局として、まちづくり政策局に防災環境都市推進室を設置しました。今回の国連防災世界会議を一過性のものとしないうち、引き続き関係機関やNPO等の皆さんとも連携し、シンポジウム等を開催していくほか、昨年12月のメモリアル検討委員会の提言を基に、震災の記憶の未来への継承にも取り組めます。手始めとして、本年12月に開業予定の地下鉄東西線の東の起点・荒井駅に、東部地域の被害や復興の状況を伝えるメモリアル施設を整備します。かつての暮らしを思い起こさせる写真の展示や語り部の方のお話など、地域の皆さんとご一緒に工夫をしてみたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

今回新たに工事が完成したのは、田子西隣接、南福室、上岡田、七郷、六郷、荒井西、荒井南の7地区。既に宅地の引き渡しが進められている荒井公共区画整理地区や石場地区などの6地区と合わせて全13地区の工事が完了しました。4月からは順次住宅の建築が始まり、被災された方の住宅再建が本格化します。

市政トピックス

### 仙台市が地方創生特区に指定へ

3月19日に行われた第13回国策特別区域諮問会議において、規制緩和により地域経済を活性化させる「地方創生特区」(国家戦略特区の二次指定)に、本市が指定される見通しとなりました。

市は昨年8月、起業促進を主な柱とする「ソーシャル・イノベーション創生特区」を国に提案。震災以降、少子高齢化などの社会的課題の解決を志す起業家が増加していることなどを背景に、NPO法人の設立手続きの迅速化や、起業ワンストップ支援センターの設置などといった規制改革を行うことで、新たな経済成長モデルの構築を目指します。

今後、閣議決定を経た後、政令により正式に地方創生特区に指定されます。

市政トピックス

### 大沼太陽光発電所が稼働

若林区荒井に設置を進めていた大沼太陽光発電所が、4月1日に運用を開始しました。

この発電所では、7千平方メートルの敷地に2072枚の太陽光パネルを設置。年間発電電力量は約56万キロワット時が見込まれ、一般家庭約150世帯分の年間消費電力量に相当します。本発電所の売電で得られた収入は、震災後の地盤沈下により増加した農地の排水経費に充当し、農家の負担軽減のために活用します。



市政トピックス

### 歴史姉妹都市の宇和島市で伊達400年の記念行事

本市の歴史姉妹都市である宇和島市では、伊達秀宗公入部400年を記念して、3月29日から11月22日まで「宇和島伊達400年祭」が開催されています。今年姉妹都市締結40周年という節目の

市政トピックス

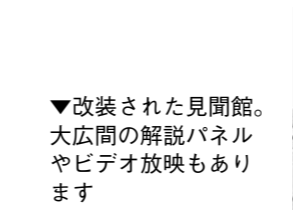
### 仙台城跡の整備が完了

市が整備を進めていた、国史跡・仙台城跡の本丸大広間の遺構を基に当時の部屋割りなどを表示する工事が、3月25日完了しました。場所は「伊達政宗騎馬像」の西側、総面積約2500平方メートル。地下にある遺構の真上に、大広間の位置や、柱を支えた礎石などを、自然石や舗装を用いて表示しました。

併せて、隣に建つ「仙台城見聞館」も改装。大広間の50分の1の模型を設置するとともに、藩主が家臣と対面した「上段の間」を飾っていた金箔の障壁画「鳳凰図」を原寸大で再現しています。



▲大広間の遺構表示。部屋の間取りや大きさを体感できます



▼改装された見聞館。大広間の解説パネルやビデオ放映もあります



年でもあることから、3月27日から3日間、奥山市長が同市を訪問しました。

3月28日には、祭りのプレイベントとして行われた地元ラジオ番組の公開録音に参加。震災時にいただいた多大な支援へのお礼と、今後の姉妹都市交流への期待について語りました。

「宇和島伊達400年祭」では、今後も食と歴史をテーマとしたイベントや伊達博物館での企画展などが行われます。



▲オープニングイベントでは「牛鬼まつり」で有名な牛鬼が登場

市政トピックス

### 県内被災市町への職員派遣を拡大

市では、県内被災地の早期復興を支援するため、県内市町への職員派遣を昨年度の3人から28人に拡大しました。

派遣先は石巻市や気仙沼市、名取市など県内九つの自治体で、区画整理や公共建築、下水道整備などの業務に従事。沿岸地域の復興に貢献します。